

10 農 業

(1) 農家数・経営耕地面積

2020年農林業センサスにおける総農家数は12,103戸で、総世帯数の14.3%、主業経営体数は専業農家は1,502戸（農家数の12.4%）と県計の主業経営体数率を2.9%上回っています。また、準主業経営体数は612戸（同5.1%）、副業的経営体数は3,773戸（同31.1%）、自給的農家は6,263戸（同51.5%）です。

経営耕地面積は10,961haで、田は3,679ha、畑6,917ha、樹園地365haとなっています。農家一戸当たり経営耕地面積は91aで、県平均を20a上回っています。耕地は標高550m～1,500mにかけ広く分布しています。

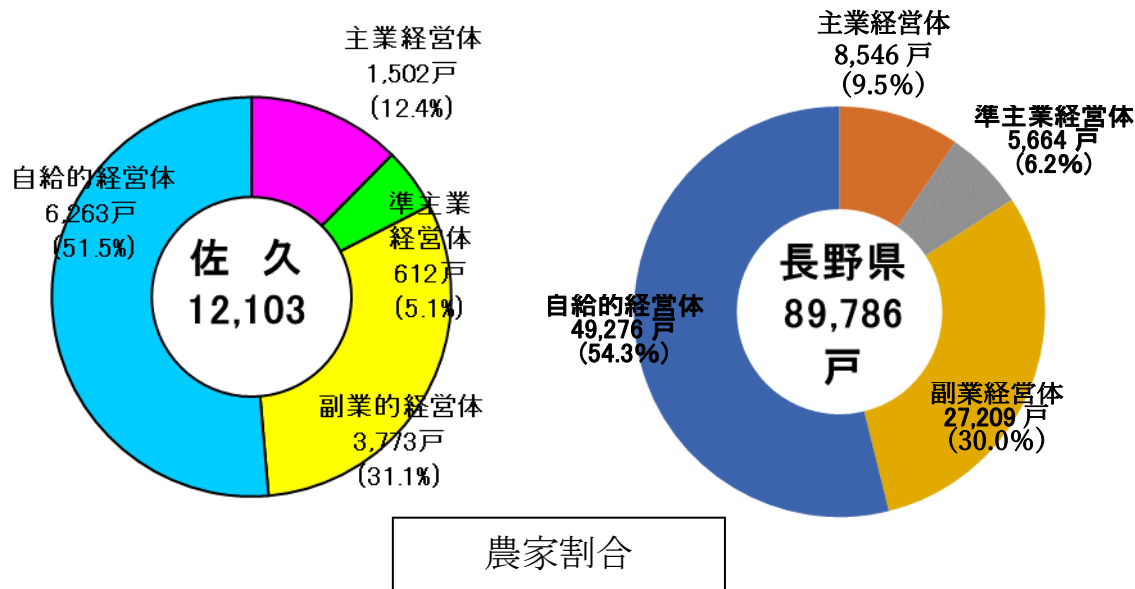
※経営耕地面積は、農業経営体が所有する経営耕地面積を示す。

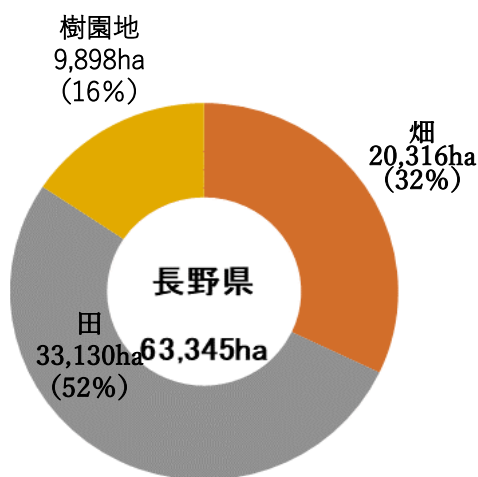
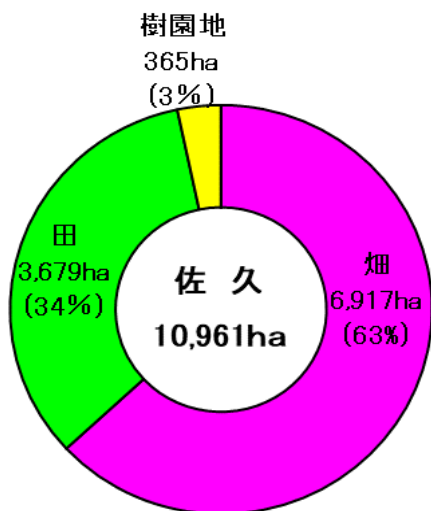
○ 市町村別農家戸数及び経営耕地面積

（単位：戸、ha）（令和2年）

| 区分 | 農家数 | 主業 経営体数 | 主業 経営体率 | 経営耕地 面積 | 内販売農家経営耕地面積 | | | | 1個当たり 経営耕地 面積 (a) |
|---------|--------|------------|------------|------------|-------------|--------|-------|--------|----------------------------|
| | | | | | 畑 | 田 | 樹園地 | 計 | |
| 小 諸 市 | 1,983 | 184 | 9.3% | 1,366 | 791 | 486 | 90 | 1,366 | 69 |
| 佐 久 市 | 6,017 | 306 | 5.1% | 3,449 | 900 | 2,426 | 123 | 3,449 | 57 |
| 小 海 町 | 358 | 56 | 15.6% | 343 | 320 | 21 | 2 | 343 | 96 |
| 佐久穂町 | 1,048 | 73 | 7.0% | 491 | 237 | 228 | 27 | 491 | 47 |
| 川 上 村 | 522 | 420 | 80.5% | 1,770 | 1,757 | 13 | 0 | 1,770 | 339 |
| 南 牧 村 | 337 | 213 | 63.2% | 1,433 | 1,425 | 8 | - | 1,433 | 425 |
| 南相木村 | 115 | 31 | 27.0% | 95 | 95 | 0 | - | 95 | 83 |
| 北相木村 | 95 | 19 | 20.0% | 84 | 78 | 4 | 1 | 84 | 88 |
| 軽井沢町 | 222 | 28 | 12.6% | 775 | 748 | 23 | 3 | 775 | 349 |
| 御代田町 | 559 | 104 | 18.6% | 516 | 438 | 75 | 3 | 516 | 92 |
| 立 科 町 | 847 | 68 | 8.0% | 639 | 128 | 395 | 116 | 639 | 75 |
| 管 内 計 | 12,103 | 1,502 | 12.4% | 10,961 | 6,917 | 3,679 | 365 | 10,961 | 91 |
| 県 計 | 89,786 | 8,546 | 9.5% | 63,345 | 20,316 | 33,130 | 9,898 | 63,345 | 71 |
| 県 対 比 % | 13.5% | 17.6% | - | 17.3% | 34.0% | 11.1% | 3.7% | 17.3% | 128.4% |

（注）2020年農林業センサスによる。端数処理のため計と内訳が一致しない場合がある。





主業経営体耕地面積割合

(2) 地域別農業の特色

| 区分 | 市町村 | 特色 |
|---------|-------------------------------------|---|
| 南部高冷地帯 | 川上村 南牧村 | <ul style="list-style-type: none"> 野菜専作及び野菜と畜産（乳用牛、肉用牛）の複合による土地利用型農業地帯 野菜はレタス・はくさい・キャベツ等を主体とした全国屈指の産地 農業後継者が定着している |
| 南部中山間地帯 | 小海町 南相木村 北相木村 佐久穂町（旧八千穂村） | <ul style="list-style-type: none"> 高原野菜とキク等の花きを中心とした園芸地帯 肉用牛（繁殖）、乳用牛、豚の飼育地帯 |
| 浅麓準高冷地帯 | 小諸市 軽井沢町 御代田町 | <ul style="list-style-type: none"> 浅間山麓は高原野菜の産地であり、レタス・はくさい・キャベツの他、ブロッコリー・チンゲンサイ等の生産が盛んな園芸地帯 豊富な草資源を活用した乳用牛の飼育地帯 |
| 佐久平坦地帯 | 佐久市 （旧佐久市・白田町・浅科村） 佐久穂町（旧佐久町） | <ul style="list-style-type: none"> コシヒカリを主体とした県下有数の良質米生産地帯 キク・カーネーションの古くからの産地 果樹は、りんごの新わい化栽培の導入を推進しているほか、プルーンの主産地 豊富な水資源利用による、佐久鯉・ニジマス・シナノユキマス等の養殖が盛ん |
| 川西丘陵地帯 | 佐久市（旧望月町） 立科町 | <ul style="list-style-type: none"> キャベツ等の高原野菜の産地 りんごは品質に定評のある主産地 大規模な団地による肉用牛・豚の飼育地帯 |

(3) 農産物産出額

令和3年の農産物産出額は556億円で、作物別の構成比は、野菜61.2%、畜産13.7%、米穀類10.1%、きのこ8.5%、花き3.2%、果樹3.1%の順になっています。

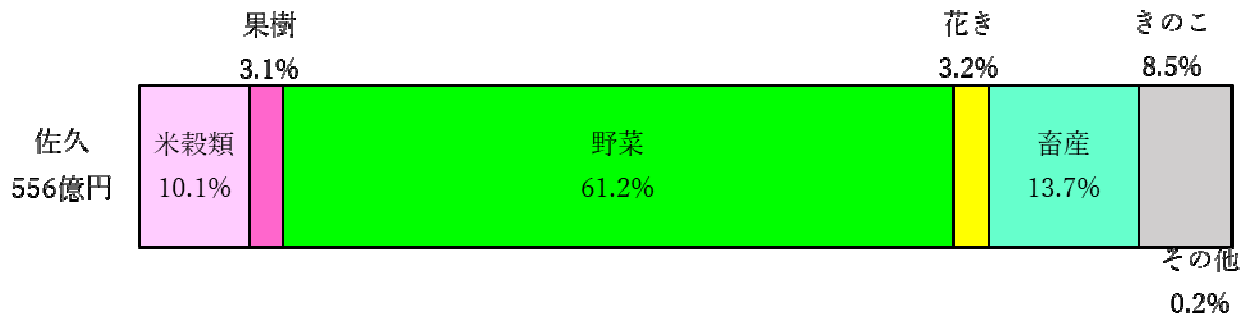
○ 作物別産出額

(令和3年)

| 区 分 | 佐久の産出額 | | | 長野県の産出額 | | |
|------|--------|-------|-------|---------|-------|------|
| | (億円) | 構成比 % | 対県シェア | (億円) | 構成比 % | |
| 農畜産物 | 米穀類 | 56 | 10.1 | 13.3 | 422 | 15.0 |
| | 果樹 | 17 | 3.1 | 2.8 | 609 | 21.6 |
| | 野菜 | 340 | 61.2 | 42.3 | 803 | 28.4 |
| | 花き | 18 | 3.2 | 12.7 | 142 | 5.0 |
| | 畜産 | 76 | 13.7 | 25.1 | 303 | 10.8 |
| | きのこ | 47 | 8.5 | 10.0 | 469 | 16.6 |
| その他 | 1 | 0.2 | 1.4 | 69 | 2.4 | |
| 合 計 | 556 | 100 | 19.7 | 2,817 | 100 | |

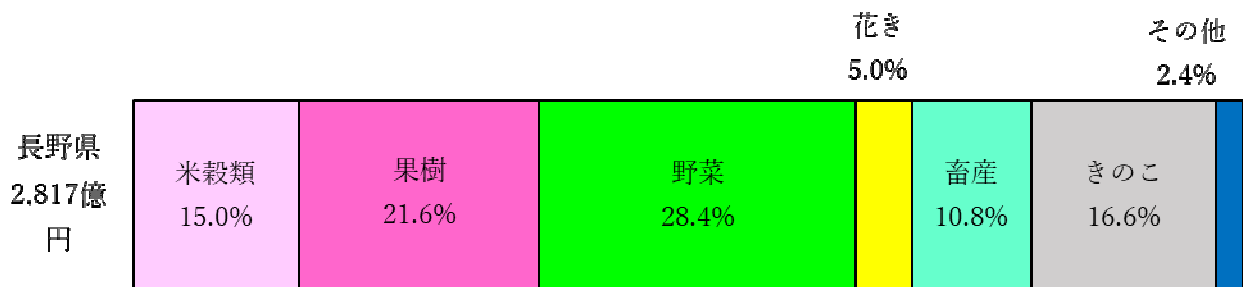
出典：長野県農政部推計による。端数処理のため計と内訳が一致しない場合がある。

◆佐久農産物産出額（R3）



出典：長野県農政部推計値

◆長野県農産物生産額（R3）



出典：長野県農政部推計値

(4) 第4期長野県食と農業農村振興計画 ～佐久地域の発展方向～

多様な人材で支え合う持続可能な佐久の農業・農村

佐久地域がめざす農業の姿

I 皆が憧れ、稼げる佐久の農業

- 法人化された大規模経営体に農地が集約され、スマート農業技術の導入により高品質多収産地として、競争力の高い水田農業が展開されています。
- 葉野菜地帯では輪作体系が導入され、適正規模による効率的経営が行われるとともに、計画生産の実施や持続的生産体系の普及により、夏秋期の全国ナンバー1産地が維持されています。
- 化学合成農薬や化学肥料を削減した栽培や有機農業などに取り組む農業者が増えて、取組面積が増加しています。

II しあわせで豊かな暮らしを実現する佐久の農村

- 地域ぐるみの共同取組活動により、中山間地域の農地が維持され、多面的機能の維持や農村の景観が保全されています。
- 農業用水利施設の防災対策が実施され、農村の安全安心な暮らしが実現しています。

III 魅力あふれる佐久の食

- 佐久地域で生産された農畜産物が地元消費者の利用に加え、学校、宿泊施設等へ供給され、農産物直売所が安定的に運営されています。
- 食育に関する理解が進み、若い世代にも関心が広まり、全国有数の長寿地域である佐久の食文化が次世代に継承されています。

【重点的な取組方向】

| 重点施策 | 主な推進方策 |
|----------------------------------|---|
| 皆が憧れる経営体の育成と人材の確保 | 市町村、関係団体と連携した新規就農者の確保・育成及び就農後のサポート |
| 夏秋期葉野菜等の全国ナンバー1産地としての持続的発展 | 需要に応じた葉野菜の計画生産と、環境に配慮した資材・技術導入による環境にやさしい農業の推進 |
| 佐久の立地と気象を生かした個性が光る産地づくり | ブルーンの生産量維持と佐久の強みを生かした品種構成による産地展開 |
| 環境にやさしい農業の取組面積の拡大 | 有機農業生産者グループの育成と安定生産の推進 |
| 農業・農村の多面的機能の維持と災害から暮らしを守る防災対策の実施 | 防災重点農業用ため池に係る防災対策の集中的かつ計画的な推進 |
| 地域食材の魅力を伝える地消地産と食育の推進 | 特徴ある農畜産物の宿泊施設等への供給による地消地産の推進 |

【主な達成指標】

| 指標項目 | 2021年 | 2027年 |
|--|----------|----------|
| ○新規就農者数 | 28人/年 | 33人/年 |
| ○中核的経営体数 | 2,097経営体 | 2,150経営体 |
| ○堆肥入り化学肥料の施用面積 | 195ha | 300ha |
| ○鮮度保持機能の向上を行う施設数 | 0施設 | 3施設 |
| ○新規需要米等の作付面積 | 228ha | 260ha |
| ○ブルーンの栽培面積 | 71ha | 71ha |
| ○化学合成農薬・化学肥料を原則50%以上削減した栽培や有機農業に取り組む面積 | 474ha | 725ha |
| ○多面的機能を維持・発揮するための活動面積 | 4,444ha | 4,602ha |
| ○防災重点農業用ため池の地震耐性評価の実施箇所数 | 24箇所 | 84箇所 |
| ○売上額1億円を超える農産物直売所の売上高 | 23.3億円 | 25億円 |
| ○新たに地元食材を供給する宿泊施設・飲食店数 | 0施設 | 20施設 |